井という部落の、若い連中で米一俵の貯金会をしていたんですが三年ぐらいたってからその金で山をひとつ買おうぢゃないかと貯金会の金で買って、共同で植付けて、中の急傾地を耕していもを植えたんです。いもは二倍ぐらいとったようです。後、毎年々々根払いに行って帰りには焼酎かかえていっていっぱいやるといった楽しみができてるようなところもあるようです。

今のところだんだん若い人の植林熱が下ってきてるようで、将来が心配されてきてますね。

―　若い人が林業に留っている度合いはどのくらい…

魚住　林業をやる家は、経営的にみて中流以上で、余裕がなければ林業をやる気持にならない。

まず土地を確保するのに金がいる、苗代、人を雇って植えつけるなど余力がなければできないということで、若い者でなくても、今から一番困るのが刈払いの問題で、人手を集めるにもなかなかいない。

それで、私の方では国有林と民有林が半々ぐらいありますので、国有林で人数を確保すると民有林の方がいない、国有林の方が比較的人夫賃が高い……。なかなか難しい問題ですね。

―　今、林業労働で働いてる人たちは中年以上の方ですか。

魚住　菊池市の青年団が三千七百名位いたのが今では一割以内の三百四、五十名になったことでも判るように殆んど若い人はもう……いないですね。

―　筑紫さんしいたけでつかってる人なんかも中年以上の方ですか。

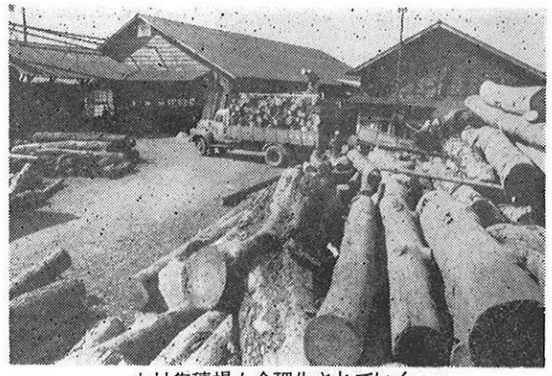
筑紫　殆んど中年以上ですね。いま魚住さんがおっしゃったように国有林関係の労務者が高いんですね。それと勤務時間が短かい、非常に影響いたしますね。これはまあ致し方がないんですが……

機械化による省力作業を

―　宮川さん、パルプ工場では若い労働力というのは一寸も心配いらないんですか。

宮本　一番心配しているのが、いまおっしゃったような林業労働力の問題です。この前いろいろなデーターをとってみましたが、私の方の系列業界の方の林業労務者の平均年令はやはり四十才となっています。

これは全般的な問題ですが、三ちゃん農業にしても、若い林業労務者の不足にしても、都会生活と若い人の関係、生活を楽しむといった、その時その時を楽しむといった感じで都会に走るといった農山村の若い人たちの空気だと思うんです。それにどう対処したらよいかというと大変な問題になるぢやないかと、私たちの方でもいつも考えていることなんです。差し当って、積極的な大きな動きはできないんですが、われわれの力で何とかやっていかなきゃならんという問題はかなり林業機械化の問題とかさなってくるわけです。


木材集積場も合理化されていく

それと中年層の方でも機械に慣れて貰って、できるだけ少ない数でまかなっていくといった防衛的な対策ですが、そういうことをやる。そのためには嫌がりますけれど、やはり機械になじんで貰うと、そして林業技術者として固定化した労働力でやっていく……そういうことに力を入れざるを得ないのではないかと思っています。

―　若い人たちには機械は魅力があるもんですか。

犬童　若い人ほど機械にはなじみやすいと思うんです。しかし実際問題として機械を使える場所、条件に制約がありまして、なかなかうまくいかない。

チェンソーの如きは全面的に使われていますが、下刈の場合は場所によっては全く用をなしませんね。それでこの急迫した労務対策としては省力作業をとる他はないと思うのです。

それから、若い労働力を引きとめるためには、労務者を優遇するより方法はないでしょう。ところが現在の林業という事業が果して労務者を優遇しのていくことができる業体であるかどうか。一方では外材がどんどん入ってくる、その影響をうけて木材価格が下る一方では賃金の上昇、コストがあがる、林業経営はどこで成り立つか、という問題がある。林業事情は非常にむづかしい所に立っている。この労働対策をどうするかが、当面する最も大きななやみですね。それと外材に対する対策ですね。

外材がなぜ、こんなに流入してくるかと考えてみますと、たしかに内地材で当面の需要に応じきれないという事情もありましょうが、それだけではないと思うのです。二十億m^3の蓄積があるといわれる内地材、そのうち十億m^3は林道未開発によるストックといわれています。ところが、林道を作って奥地を開発するより外材を輸入する方が手っとり早いというので、林道に手がつけられない傾向もあるのではないかと思います。

しかし、たしかに外材は安い。結論として安いから消費者が飛びつくのでしょうが、外材に対抗する方法としては、安くて良い質の内地材を作りだす以外にないのですが、これはよほど、我々林業関係は努力しなきゃならないでしょうね。

国家百年の計という面からはいかがと思いますけれど、やはり、まず当面の危機を打開する方策として…肥培、早成樹種の選択などの早期育成とか、省力、機械化とかの合理化を考えなければならなでしょうね。ところが一口に合理化合理化といっても自ら限度があって非常にむづかしい。そこでどうしても及ばないところは最後は林政の問題になると思うが……。というのは林業が単に企業として木材を生産して国家社会の用に供するというだけでなく国土の保全という大きな問題に関係があることです。林業が経営上企業として成り立たないということになると森林を放棄する、あるいは又造林意欲が低下するということになると国土が荒廃することになる、これを国が腕をこまねいて見ている訳にはいかない。林業家が安心して、これらの問題にとり組めるような体制を国の方で考えてもらわなければいけないと思うんです。

木材が海から上ってきて…

―　藤本さん、外材というのは、本当にいいものなんでしょうかね。

藤本　質の点ではどうしても内地材の方が優秀ですね。米栂など見かけはいいが、やはりもろいようですね。米松もやはり折れやすいようです。

―　木材は山から来るものと思っていましたが、当世では海から来るんですからね。（笑）熊本にもかなり入っておりますか。

藤本　今年になってから、増えましたね。取扱量の十%ぐらいになったでしょうか。

犬童　昭和二十七年頃までは、国内消費量の一・五%、それが十年度の三十七年には十八%ぐらいになってるんですな。恐らく去年あたりは二十三%、今年はもっと増えてるでしょうね。金額で二十八年度が四億ドル、邦貨にして千四百五十億円となっていますから、今年は二千億円位になってるでしょうね。

―　オリンピック工事関係に使われているんでしょうかね。

藤本　そうですね。北洋材がかなり使われています。それから建具などにはラワン材が使われるんですが、虫がつき易いんではないですかね。まあ、私たち加工業者としては、結局、加工賃がとれる材、それから建築材として奨められる材、そういったものを扱うわけなんですが、内地杉が一時高騰して、採算に合わなかったから敬遠されたのですね。

―　話が飛ぶようですが、しいたけは、木を使わないでとる方法なんてものはないんですか。

筑紫　今のところありませんね。いろいろと試みている人はあるようですがね。オガクズなどで結局採算が合わないということですね。まあ、しいたけの問題点は、さきほどもちょっと出ましたが価格が安定しないということですね。

魚住　私の方の若い人たちが研究したいというので、ビニールハウスによく抑制栽培などもやってみたのですが、おかげで一応の成功はみました。

三十代はしいたけがお好き

―　しいたけの需要の傾向というのはどうなんですか。

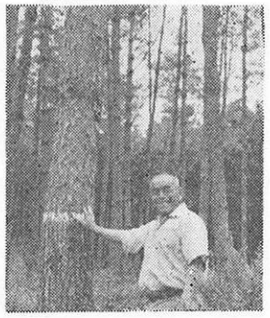
筑紫　ちょっと意外だったのは、今、一番しいたけを食べるのは三十代の人なんですね。東京あたりのアンケートの結果、三十代・二十代の順なのです。

宮本　食生活がかなり変りましたからね。熊本のしいたけの品質は、どうなんですか。

筑紫　大分についで評判がいいですね。中京方面では、どうしても熊本ものということになっているようです。ということは、選別が良いことが、好評を呼んでいると思います。

魚住　しかし、しいたけをやる方は、よほど、余力を持っていないと、原木買って、手入れをして、三年目にしか本格的に金にならないのですから。

造林にかけた六十年
内山八十次さん
（芦北郡湯浦町）

芦北の松林業は全国でも屈指。内山さんが手塩にかけたという松林はその旗手の如く天に向って伸びきっている。下刈のゆき届いた林間は庭園を思わせ、涼風がさわやかに突き抜けていく。松が主で、檜、杉の山が幾重にも続く。県内外の視察団体がたびたび訪れては、その成育振りと手入れの見事さに舌を巻いている。つい先頃も鳥取県からの農山村中堅青年二名が芦北林業研究のため内山さんの家に合宿したが非常な感銘をうけたと、帰省後県に礼状が届いている。内山さんの造林のコツは、下刈年二回の励行と、日常の育てる愛情と信念だそうだが、その意味を裏付ける〃足形（あしがた）林業〃という内山さんの新造語も十分うなづける わけ。昨年より肥培管理の効果を確め新しいファイトを燃やしては、七十九才とは思えぬ身軽さで今日も山に日参している。（K）

愛林を背に内山さん